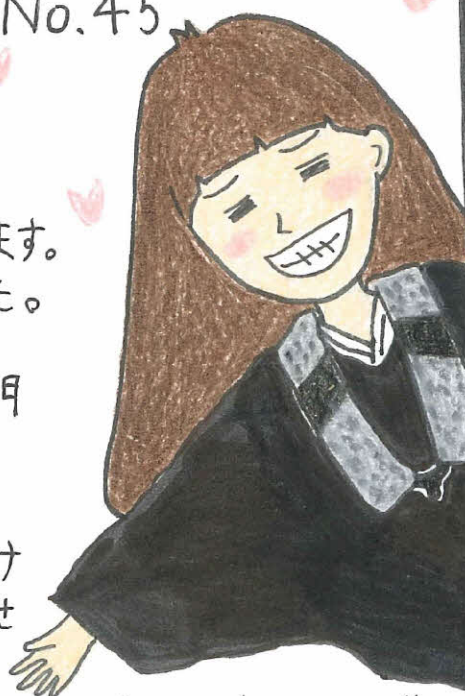


法親寺新聞

2021年 春彼岸号
手書き新聞 No.45



こんにちは。釋 紗音です。

4月8日はお釈迦様の誕生日「花まつり」ですね。

お釈迦様の有名な説話に「四門出遊(しもんしゅつゆう)」があります。

王族に生まれたお釈迦様は何不自由なく暮らしておりました。

ある日、東の門から城外に出ると老人に出会いました。

ある時は南の門から出て病人に出会い、またある時は西の門

から出て死人の列に出会いました。

今までお城の中で、老人や病人、死人に出会ったことがなかったお釈迦様は、自分がいつか老いて、病気になる、死んでいかなければならない現実を解決できないまま生きる事は本当の幸せではないという気持ちが芽生え始めます。

最後に北の門から出た時修行者に出会い、その姿に心を打たれ、出家を決意されたのです。人間の根本的な苦しみ「生老病死」は、どれだけ今を楽しく過ごしていても、誰も避けて通ることはできません。

「死」は暗くて怖い、先に何も見えないイメージではないでしょうか。

科学が進歩して、心臓や脈拍が止まった事は誰もが見て分かります。

でも「自分」は体と一緒に死んでしまうのでしょうか？

ここからは人間には想像の及ばない世界です。

浄土真宗は命が終わった後の行き先は、阿弥陀様の浄土と決定しているので「死ぬ」ではなく「往生する」と言います。

往相回向によって、阿弥陀様の浄土に生まれた亡くなった方は、浄土に行って終わるのではなく、還相回向によってまたこの世にいつでも帰ってきて、遺された方を見守り、仏法に触れるご縁をくださっています。(回向って何？と思われた方は2020年 新年号 No.40をご覧ください(ホームページでも見れます))

この世の命が終わった時、「死ぬ」という真暗なイメージより「浄土へ生まれていく」命であると受け止めていく方が、今を前向きに生きていけると思います。

死んでからが問題なのではなく、この世に生きている今、あたしの命の在り方を考えることが大セコです。

色々な大セコな事を後回しにしていますか？

Q... 浄土真宗はお葬式を『告別式』と言わないのは何故ですか？

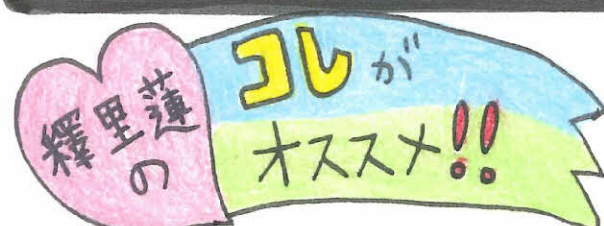
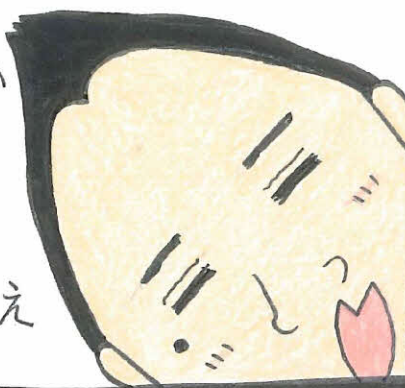
A... 浄土真宗では、亡くなった方は阿弥陀様のはたらきによって仏様となり、いつでも一緒にいてくださいます。自分自身もいつかは浄土に生まれさせていただき、また再会する事ができます。別れを告げる必要はありません。

住職の法話

WHOがソーシャルディスタンス「社会的距離(心理的なものを含む人と人との距離)」からフィジカルディスタンス「社会的関係は維持し、身体的距離を確保」に言い方を改め、言葉の使用も移行されつつあります。感染への異常な不安により、人と人との間に心理的にも接触を回避する悲しい現象が生じ、感染者に対する差別を生み出しました。コロナ差別の話を聞く時に人々は「やさしさ」を忘れてしまったのかと寂しさを感じます。「やさしい」の語源は「瘦せる(やせる)」で「己の身を細らせるほどに入や世間に対して取っつきにくい」の意味です。その取っつきにくさを優雅、優美であると評価するようになり、やがて「じつまいが細やかで思いやりがある」の意味に変化しました。

『仏説無量寿経(ぶせつむりょうじゆきやう)』に「和顔愛語(わげんあいご)にして、意を先にして承問す」とあります。「表情はやわらかく、言葉はやさしく、相手の心をとらえ取りよく受け入れ」の意味です。相手の身になって、穏やかな笑顔とやさしい言葉で相手の気持ちを察し接することをお釈迦様は教えて下さいます。

人と人との心の距離を縮めながら、物理的距離は維持し、感染に注意しつつ、この大変な状況を乗り越えましょう。



花粉症に悩まされている釋里蓮です(T.T)今回はこれからの季節にぴったりなお店をご紹介します。石山公園内にある Koé Pizza です。瀬戸内産の野菜や、希少なチーズを使用したピザが屋外でいただけます。16時まではサラダとドリンクが付いてきてお得♡

ずっと外出自粛が続いていますが、たまには岡山城を見ながら優雅な気持ちでランチも良い気分転換になるかもしれません(笑)セットを持ち帰れるので、お家で温めなおして食べてもOK♪2の、しらすピザはメニューに書かれていませんが、イカスミを使用しています。

◎岡山市北区石山公園内 086-201-1331 水木定休日



お知らせ



春季永代経法座
●日時 ●令和3年4月29日(木)午後1時～
●場所 ●法親寺 本堂
●講師 ●本願寺派 布教使 福岡 智哉 師

お車で参りの際は、隣接新接臨時駐車場をご利用下さい。

